

平成30年6月17日
今週のベストショット



青松園B ブルーマーリンズ 対 塩浜ジャガーズ戦
六回裏、代打HRを放ったジャガーズ高嶺選手と大喜びのベンチ。

写真：奈多サンデーズ 野々下 利生久

青松園A 四回の攻防が勝敗を左右！

奈多フェニックス（2勝2敗）00040 4 今林（勇）○、太田一実延（新）

三苦三球会 （3勝1敗）00020 2 吉留●—藤澤

盗塁：上村、大津、塚（太）、松尾、（三球会）

奈多フェニックス今林（勇）投手、三球会吉留投手の好投手先発で試合開始。三回までは両チームともチャンス・ピンチを迎えるも0点で試合は進んでいく。何とかしたい四回に両チーム試合が動く。フェニックスは二死一二塁のチャンスで福島選手がライト前タイムリーヒットを放ち、1点を先制。続く今林（勇）投手の打球はセカンドゴロ・・・も処理を焦りタイムリーエラー。その後連続ヒットで合計4点を奪う。その裏、三球会もすぐさま反撃にでる。今林（勇）投手の投球をうまく見極め無死満塁のビックチャンス。続く打者濱口選手はライトへの犠牲フライでまず1点。その後再び満塁とし、藤澤選手の内野ゴロの間にもう1点追加。二死二三塁とチャンスを残すが後続が倒れ2点止まり。最終の五回裏、三球会は代わったフェニックス太田投手を攻めきれず試合終了。両チームともに初回・五回と得点チャンスを攻めきれなかったが、四回のチャンスを活かしかれたフェニックスに軍配があがった。（記事：三友クラブ 山本 健一、写真：大坪 和則）



奈多フェニックス先発 今林（勇）投手。



三苫三球会先発 吉留投手。



三球会濱口選手の強襲ヒットを受ける今林（勇）投手。



先制タイムリーのフェニックス福島選手。



三球会反撃の一打 濱口選手の犠牲フライ。



本日両チーム一番の会心打 フェニックス今林（誠）選手。



リリーフ登板 フェニックス太田投手。

雁レク7 (奥) 両投手好投の行方は？

レッドサンデーズ (2勝2敗) 0000000 0 塚本●ー八島
三苦フレンズ (4勝1敗) 000200× 2 山口○ー佐藤 (由)

2BH: 山口 (三苦フ) 盗塁: 生野 (拓)、松尾 (三苦フ)

試合序盤は両チーム共に静かな展開。三回表に先ずはレッドサンデーズが山口投手攻略に動き出す。八番近藤選手、一番川原 (正) 選手のバントヒットを足掛かりに一死二塁のチャンスメーク。打順が二、三番に繋がるも凡打で先制点は取れず。三苦フレンズはその裏ライト前とセンター前ヒットで二死二塁のチャンス。さらに揺さぶりをかける盗塁も成功し二三塁とするも、続く期待の打者吉村選手がキャッチャーフライに倒れ塚本投手を崩せない。しかし先制点を取ったのは三苦フレンズ。四回裏に二塁エラーとレフト前を絡め無死二三塁にするとセカンドゴロの間に先制、さらに二塁エラーで追加点をもぎ取る。この2点があれば今日の山口投手には充分すぎる点数だった。この試合11の三振を奪う完封勝利。相手レッド塚本投手もすばらしいピッチングをしていただけに三回に先制点が取れなかったことが悔やまれる。(記事: 新町ウインズ 大久保 浩、写真: 早田 主大)



相手よりも早く積極的に体を動かすフレンズの試合前。



OBの田浦さんを交えてのレッドの試合前練習。



急なオーダーのやりくりし四苦八苦のレッド八島監督。



太陽を背に余裕を伺わせるフレンズナイン。



チャレンジャーのレッドサンデーズ。



投打に活躍したフレンズ山口投手。



山口投手と投げ合ったレッド塚本投手は自責点0。



レッド唯一外野への打球を飛ばした四番八島選手兼監督。



セカンド後方の打球を処理した近藤選手は2安打を。



三回表、バント安打を放ったレッド一番川原（正）選手。



スライディングキャッチを試みた土田遊撃手。



好守したフレンズショート吉村（雄）遊撃手。



試合後監督同士の挨拶。

青松園B 見事な逆転劇でジャガーズ快勝！！

ブルーマーリンズ (5敗) 2 1 0 0 0 0 3 横山(祥) ●ー横山(健)

塩浜ジャガーズ (1勝3敗) 0 0 2 3 0 2 7 立石○ー竹尾

HR: 高嶺(塩浜ジ) 2BH: 糸井(ブルー) 石内2、立石(塩浜ジ)

ブルーマーリンズ横山(祥) 投手、ジャガーズ立石投手の先発で始まったこの試合は初回から動きを見せる。ブルーマーリンズ先頭打者の児玉選手が早速ヒットで出塁すると四番糸井選手のタイムリーなどでいきなり2点を先制する。対してジャガーズはフォアボールとデッドボールなどで負けじとチャンスを作るも、無得点に終わる。一方、二回裏にも1点を追加し完全に流れはブルーマーリンズに傾きかけていたのだが、それでは終われないジャガーズ、三回裏、二番橋村選手がエラーで出塁すると四番内田選手、五番佐藤選手、六番石内選手の3連打で2点を加え、四回裏にはこの日2本目となる石内選手のタイムリー二塁打などで逆転を果たす。何とか流れを取り戻したいブルーマーリンズであったがチャンスを作るもなかなかものにできず、六回裏にはジャガーズ代打高嶺選手のソロHRなど2点を加えられそのままゲームセット。四死球やエラーなども多い試合であったが動きがある非常に見応えのある面白い試合であった。(記事・写真: 奈多サンデーズ 野々下 利生久)



塩浜ジャガーズ先発の立石投手。



ブルーマーリンズ先発の横山(祥) 投手。



タイムリーを放つブルーマーリンズ四番横山選手。



この日大活躍のジャガーズ石内選手。



華麗なる送りバントを決めるマーリンズ横山選手。



代打高嶺選手の HR に沸くジャガーズベンチ！



今期初HRの高嶺選手（左）と初ヒットの藤崎選手（右）！！

雁レク7（手前） ソルトベ이스ターズ追い上げも及ばず、ホーネッツ貫禄の継投勝利

三苫ホーネッツ（5勝） 2 2 2 0 0 0 6 川原○、矢野一広木

ソルトベ이스ターズ（5敗） 0 1 0 0 2 1 4 鶴野●一大門

HR：川原、堺（恭）、稲葉（三苫ホ） 3BH：野口、鶴野（ソルト） 2BH：広木（三苫ホ） 鶴野（ソルト）

盗塁：堺（恭）、井手（三苫ホ） 鶴野（ソルト）

試合序盤は三苫ホーネッツが持ち味の打力と走力により試合の流れを掴む。一回表、四球とヒットと盗塁で無死二三塁とすると、三番矢野選手の大きなセンター犠牲フライで、三塁ランナーに続き二塁ランナーの井手選手も俊足を活かして一気にホームインし2点先制。二回表には九番川原選手、一番堺（恭）選手の二者連続HRと、三回表には五番稲葉選手の2ランHRにより6点を挙げる。投げては先発の川原投手が一回、三回を三者連続三振に仕留めるなど三回を終わって6対1とワンサイドゲームの雰囲気が出てきた。しかし、ソルトベ이스ターズ鶴野投手の巧みなピッチングで、四回以降ホーネッツ打線を0点に抑え試合の流れを呼び戻す。打線も反撃を開始し、五回には一番野口選手の三塁打などで2点を返し3点差とするが、最後は抑えの矢野投手への継投にかわされゲームセット。ソルトベ이스ターズもあと1本が出ていれば、もっと面白い試合展開になっていたが、点差以上に、そうはさせないホーネッツの盤石な試合運びが印象に残る試合であった。

（記事：奈多クラブ 今林 康司、写真：今林 賢人）



ソルトベイスターズ先発の鶴野投手。



一回裏ソルト中村元監督に挑む川原投手。



一回表、俊足を活かして2点目のホームイン井手選手。



二回表ホームランを放つホーネッツ九番川原選手。



二回表HRの川原選手とハイタッチの堺（恭）選手。



二回表ホームランの堺（恭）選手とハイタッチの井手選手。



二回裏、タイムリーヒットを放つソルト田中選手。



三回表、2ランHRを放つ稲葉選手。



三回裏、今日2安打も三振のソルト四番酒井選手。



五回表、二塁打を放つホーネッツ四番広木選手。



五回裏、反撃の三塁打のソルト一番野口選手。



打ち合いを演じた両チームの試合終了整列。



今日ホームランのヒーロー川原・塚（恭）・稲葉の3選手。



負けはしたが今日3安打に完投した鶴野投手。

第8週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

第8週、6月17日は4試合が行われました。

青松園Aの奈多フェニックス対三苦三球会戦は、お互いランナーを背負いながらも無得点で迎えた四回表、四死球にタイムリーとエラーを絡めフェニックスが4点を先制すると、その裏三球会も4四球などで2点を返すも、フェニックス二番手・太田投手が粘る三球会を退け4-2でフェニックスの勝利。ここまで無敗の一角、三球会に土がついた。両チーム合計14四死球ではいまいち締まりのない試合展開だ。

雁レク7（奥）のレッドサンデーズ対三苦フレンズ戦は、両チーム合計14四球という素晴らしい投手戦。フレンズ山口投手相手にレッドは3安打全てバントヒット。三回表と五回表のチャンスもフレンズ内野陣が堅い守りでしのごと、四回裏レッドのエラーに打撃も好調の山口投手の二塁打を絡め2点で勝負あり。0-2でフレンズの勝利。七回を1時間3分で終了するスピーディーな試合だった。この試合フレンズ吉村（雄）選手が左打席でスラップを披露するなど技術向上に余念がなかった。

青松園Bのブルーマーリンズ対塩浜ジャガーズ戦は、ブルーマーリンズが幸先よく3点を先制するものの、ジャガーズは三回裏、四回裏に効果的なタイムリーを放ち逆転すると、六回裏、四番に代打・高嶺選手が値千金の

2ランを放ち3-7でジャガーズが逆転勝利。ジャガーズは新ユニフォームで初勝利。一方ブルーマーリンズは未だ出口が見えず5連敗。

雁レク7（手前）の三苦ホーネッツ対ソルトベイズターズ戦は、三回までにきれいに2点ずつ計6点を奪ったホーネッツが主導権を握るものの、後半は一転ソルトベイズターズペース。五回、六回に三塁打が飛び出すなど、ホーネッツを上回る7安打を放つも前半のリードを川原・矢野投手のリレーで守り切ったホーネッツが6-4で勝利。審判の昨年覇者・奈多クラブはソルトの粘りに期待したに違いない。

夏至を迎えて日も長くなり、朝は五時前～夕方は八時近くまで明るくなりました。

更にW杯なども重なり夜更かしの日々も続くかもしれませんが、皆さん遅刻だけはしないように！